

資料3

大阪府立障がい者自立センター退所者アンケート調査結果

I. 調査概要

1. 調査対象： 令和6年4月から令和8年3月末までに退所された方 144 人

2. 調査期間： 令和6年4月1日～令和8年3月31日

3. 回答率：82%（118人/144人）

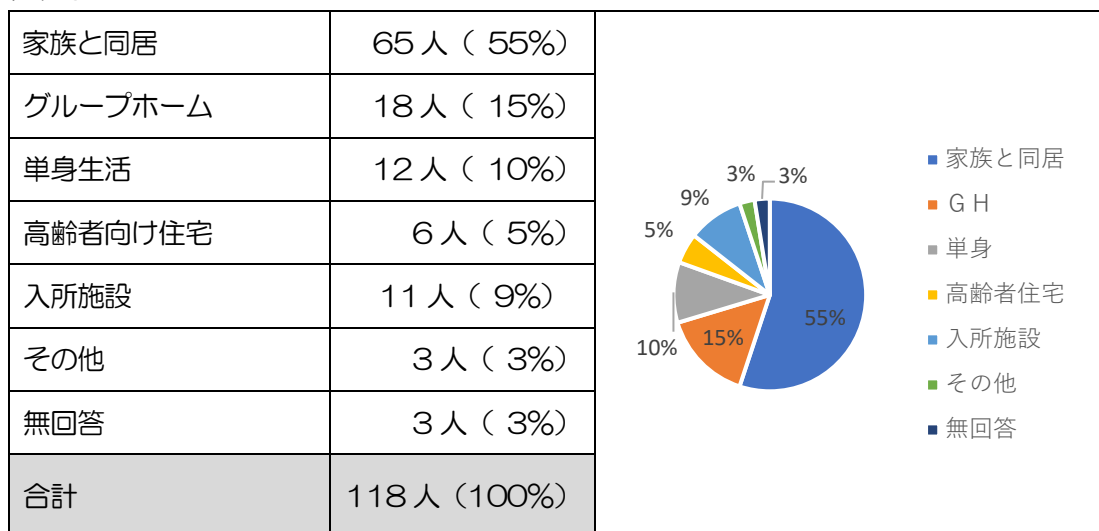
※構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはなりません。

※記述欄は、原文のままです。

II. 調査結果

1. 退所後の暮らしについて

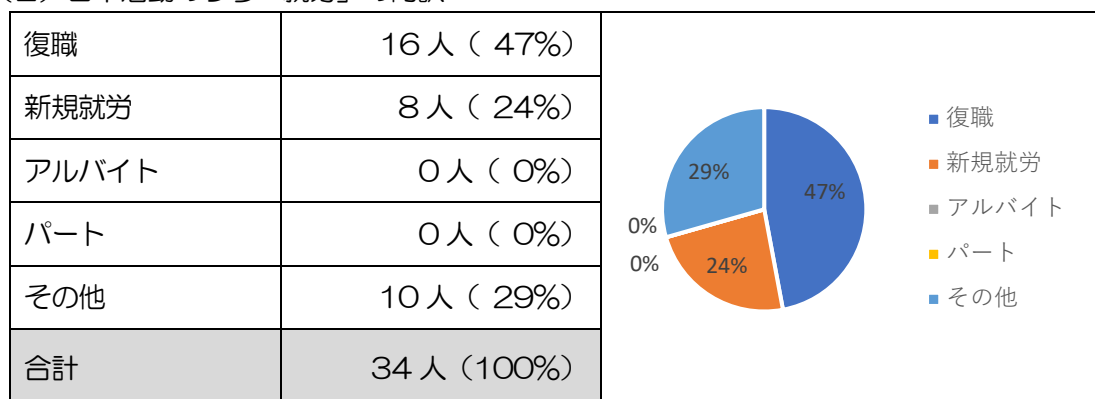
(1) 住まい



(2) 日中活動（複数回答可）

就労	34人
学校（復学）	11人
障がい福祉サービス	66人
介護保険サービス	24人
家事・趣味等	40人
無回答	7人
合計（延べ人数）	182人

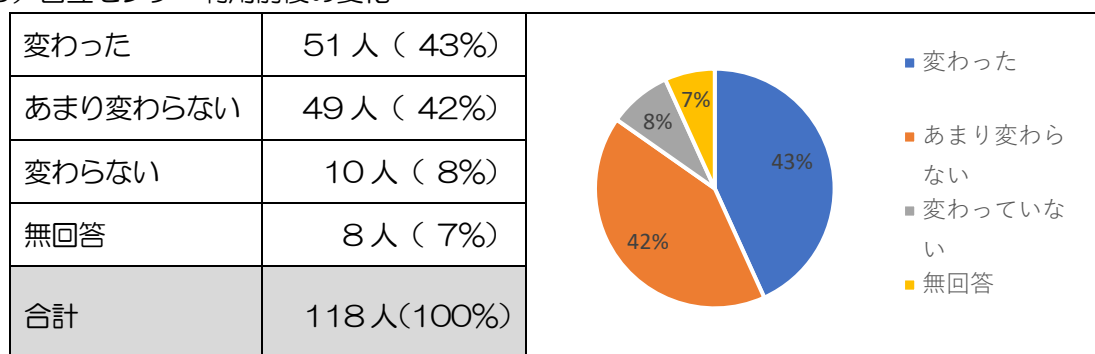
◆（２）日中活動のうち「就労」の内訳



◆（２）日中活動のうち障がい福祉サービス利用（複数回答可）

障がい者職業能力開発校	1 人
就労移行支援	12 人
就労継続支援 A 型	2 人
就労継続支援 B 型	30 人
生活介護	6 人
地域活動支援センター	6 人
自立訓練	17 人
その他	0 人
合計（延べ人数）	74 人（100%）

（３）自立センター利用前後の変化



＜「変わった」と回答した人の意見＞

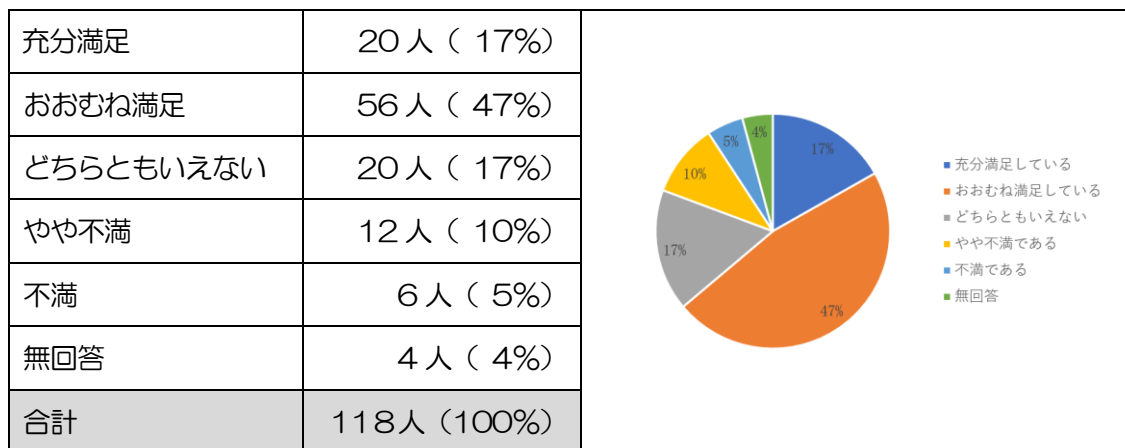
○昼夜逆転が改善された。アラームを使って行動できるようになった。スマホで記録した写真のデータが見れるようになった（便の出た日時、服薬の有無）。洗たく、掃除など自分からできることが増えた。一週間の予定をみて、安心できるようになった。メモリーノートをみて行動できることが増えた。歩行訓練のおかげで平均 15 歩程度無理なく歩くことができるようになった。25 歩歩いてもさしさわりのない。

○身のまわりのこと（洗濯、掃除）が少しできるようになった。入所当初に比べて会話の内容が具体的に話せるようになり、人の話も少しは聞けるようになった。新しい事が入って来づらいのでこまめにメモをとるなどの習慣が身についた。

○できなかったことができるようになった。体力がついた。早寝早起きなど生活リズムが整った。

2. 自立センターについて

（1）自立センターを利用してどのように思われましたか？

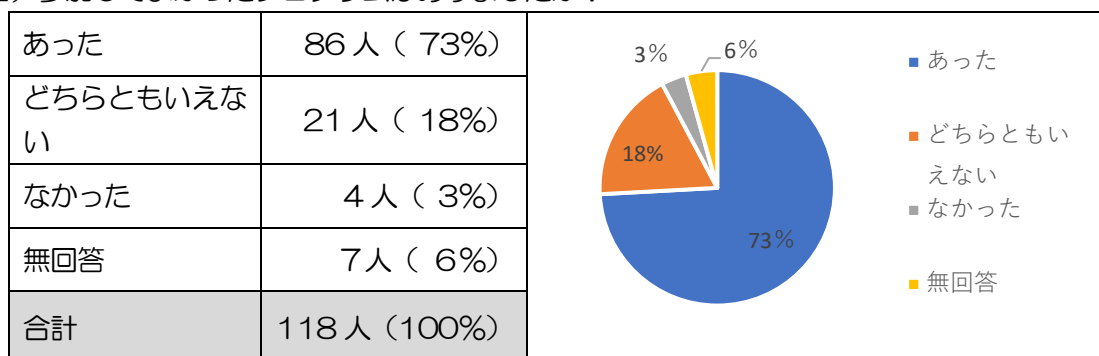


＜利用者の感想（不満な点）＞

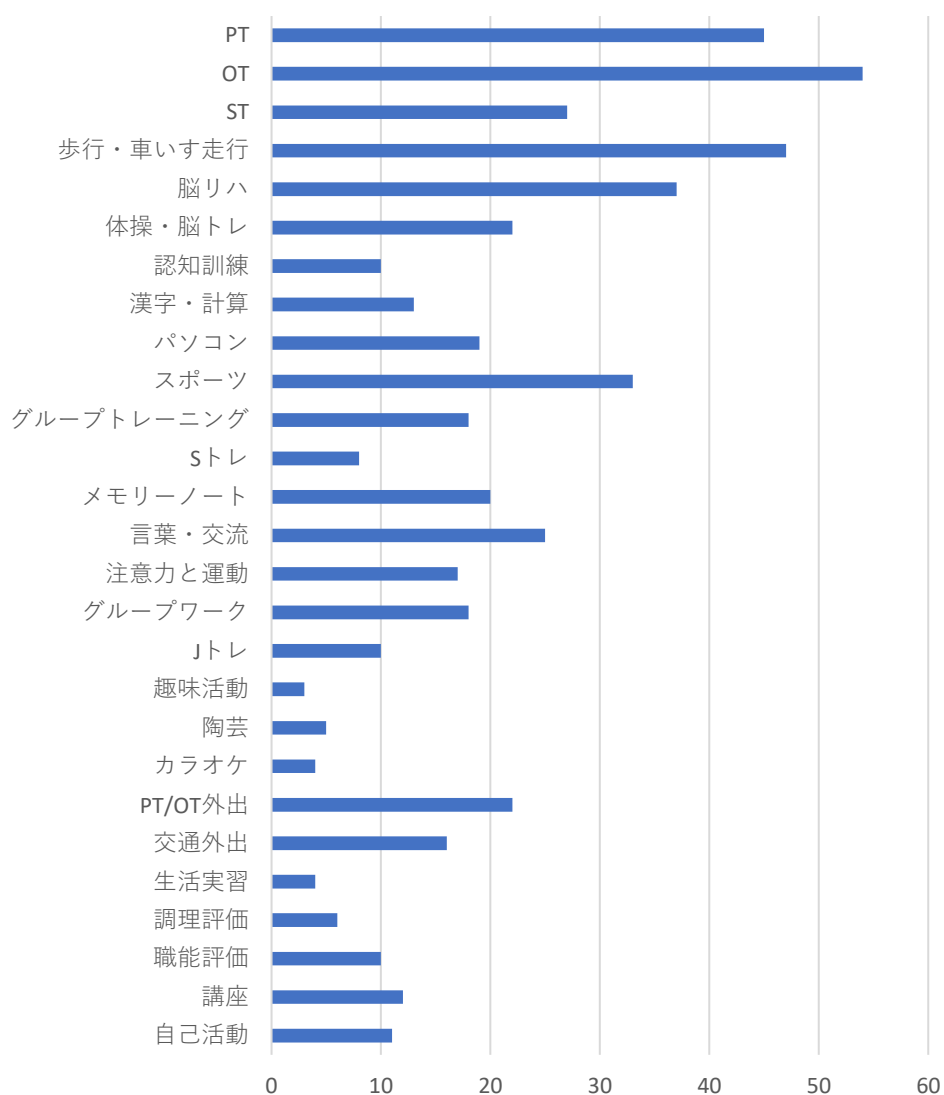
○職員間でルールに対する認識がバラバラ。担当職員に頼んだことを半年経っても全くやってくれない。他の職員に頼んだら、1 週間で回答してくれた。とにかく利用者のことをなめているとしか思えない。臨機応変な対応をしてくれる職員とそうでない職員の差がありすぎる。脳リハで問題が間違っていることを指摘したら、障がい者の戯言として流される。バカにされているように感じる。

○ロールパンが食べにくいので食パンに変えてほしかった。焼きそばのソースが薄すぎ。イエローロール、ハニーロールは一度も食べたことがなかった。OT が脳リハばかりでまひの手の動作練習を組み込んでほしかった。ライフに行きたかった。外出フリーを獲得したかった。自宅での住む練習を別途行う必要が生じたから。

(2) 参加してよかったプログラムはありましたか？



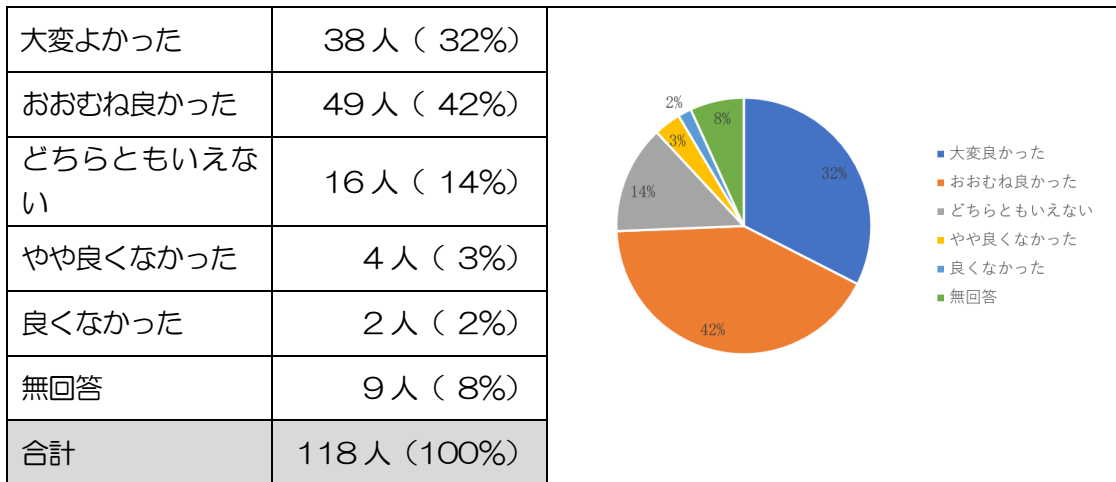
◆参加してよかったプログラム（複数回答）



※各プログラムの内容については、P.9～P.10 をご覧ください。

受講するプログラムは、利用者によって異なります。

(3) 職員の接し方や態度は適切でしたか？



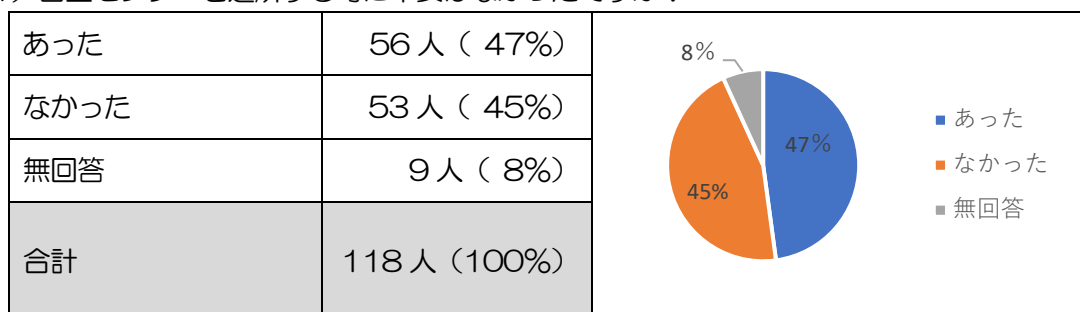
<良かった点>

- 困った時（困った人がいた時）、すごくやさしくしてくれた。
- すぐ名前を覚えてくれたし、親切でいい方ばかりでした。僕も全員のフルネーム覚えしました。
- 質問したらきちんと答えてくれる。気になる事など話したら対応してくれる。不安な事など話をしたいと伝えと時間をつくって話を聞いてくれる。
- 明るく元気に声をかけてくれた。家族からの質問や依頼も丁寧にに対応してくれた。障がい年金申請の相談に時間を割いてくれてしっかり対応してくれ、提出書類の下書きまで書いてくださった。不安が解消された。退所後の住まい探しの相談にも丁寧にに対応してくれた。有難うございました。
- 電話対応が良かったです。皆さん優しく接していただけた。（訓練の時）

<良くなかった点>

- その場の雰囲気に合わせてすぐに返答されること。別の方に（他の職員にきくと違っていたり）職員 1 人 1 人の認識が違いすぎる事。
- 人によって介助に差があり。巡回が心臓に悪かった。
- 4 人部屋の際、ナースコールで夜中に職員さんと呼ばれた方がいたが、会話の音量が大きく、目が覚めてしまった事があった。
- 職員さんに対してではなく、役所やサービスに詳しい方がおられるとよかった。

(4) 自立センターを退所する時に不安はなかったですか？



<「不安があった」と回答した人の意見>

- 経済面では、お金の管理があまりできず、この先も正直不安でしかないです。
- 先の事が何も決まってないので不安でしかない。
- 前の家の事や整理に退所前におわらせたかった。ひとり暮らしのため、外出外泊がなかなか出きなかった。
- 一人で介護するので、不安があった。ケアマネージャーが細かい相談にのってくれありがたい。
- 日常生活が出来ているようで、出来ていない。そのため、就労についてもどこまで出来るかわからないし、経済面と生活が今までと違うので、この先の事を考えてしまう。
- 今後のリハビリをどうするかと日中家族以外の人との接点をどう作っていくか。退所後、自宅で日々をどうやって過ごしていくか心配です。

3. これからの生活について

(1) これからやってみたいことは何ですか？

- 生活リズムをつくりながら電車やバスに不安なくのれるように利用する。就労パソコンとかもがんばる。
- 健康を考えて、バランスのよい料理を作れるようになりたい。留守番ができるようになりたい。仕事をして生活費を得られるようになりたい。車の運転が再開できてほしい。旅行にいきたい。
- 仕事。USJ いきたい。
- OCAD を勉強したい。
- マラソン。
- 外食。
- 買い物、調理（レンジになると思うが）。
- 車の運転。外出。
- 友達と外出する。仕事復帰する。

(2) こんな支援があればいいのに、と思うことはありますか？

- 計画相談の人が、センターの担当さんくらいの距離感だったらいいなと思う。
- 電話相談やリモート面接をしていただけると助かります。
- 動画などで配信などあれば良い。（退所された方のその後の生活の工夫などあれば参考になる）アニメ等でいいので。
- スマホで契約などそういうのが分からない。気長に教えてもらえるような所。
- お泊り保育（退所後もここをショートステイみたいに使いたい）。
- 使えるサービスの選択肢が知りたい。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

当センターでは、開所した平成 19 年 4 月より、退所された方々を対象に利用満足度を把握するアンケート調査を実施してきました。今回は令和 6 年 4 月から令和 8 年 3 月末までに退所された方々の回答を集計しました。

アンケート用紙は退所された方全員に配布しています。回収率は 82% となり、前回より 2% 増加しました。

退所後の住まいについては、前は家族と同居が 43% で半数を占め、次いでグループホームが 17% となっていました。今回は家族と同居が 55% と半数を上回りました。グループホームは 15% となり、低下しました。また、前は単身生活の割合が 20% でしたが、今回は 10% となり、低下しました。

日中活動では就労された方の復職の割合は前年 61%、新規就労が 16% であったのが、今回は復職が 47%、新規就労が 24% となっており、新規就労の割合が増えています。一方、障がい福祉サービスを利用された方の割合は前年 32%、今回は 36% となっており、ほぼ同じ割合で推移しています。

自立センター利用後の生活の変化では、変わったと答えた方の割合が前年より 8% 減って 43% となっています。あまり変わらないと答えた方の割合が前年より 3% 増加し、42% となりました。変わらないと答えた方の割合は、前年 5%、今回は 8% と増加となっています。

自立センターを利用した満足度は、前年、十分満足／おおむね満足と答えた方の割合が合計 65%、どちらともいえないが 19%、やや不満／不満と答えた方の割合が合計 12% でした。今回は、十分満足／おおむね満足と答えた方の割合が合計 64%、どちらともいえないが 17%、やや不満／不満と答えた方の割合が合計 15% でした。前年と比べて、やや不満／不満と答えた方の割合が増加した結果となりました。

参加してよかったプログラムがあったかについては、73% の方があったと回答しています。内訳としては PT、OT、ST などの専門的な訓練とともに、基本的な体力作りの歩行・車いす走行、脳リハビリ体操・脳トレなどの高次脳機能障がいに関心するプログラム、コミュニケーション能力の向上を図る言葉・交流が高い評価を得ています。スポーツなどの余暇活動、他利用者との交流の場も高い評価となっています。

職員の対応は大変良かったと答えた方の割合が 32% となり、前年より 17% 減少しました。おおむね良かったと答えた方の割合は 42% となり 8% 増加し、どちらともいえないと答えた方の割合は 14% となり、前年より 4% 増加しました。やや良くなかった、良くなかったと答えた方の割合は、前年それぞれ 1% と 0%、今回はそれぞれ 3%、2% となっています。

退所時の心配については 47% の方があったと回答しています。日常生活、リハビリ、経済面、就労、学業についての不安を持ちながら退所される方は依然として多い状況です。

今後もアンケートの回収率を維持、向上しつつ、今回いただいた貴重な意見を職員間で共有し、支援の質と利用満足度の向上に努めていきます。

最後に、アンケートにご協力をいただいた利用者・ご家族の皆様方に厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

プログラム一覧（令和8年3月改定前）

プログラム名	内容や目的
PT(理学療法)	身体・運動機能の把握、評価と維持・向上、特に移動能力の向上をはかる。 関節可動域訓練、筋力増強訓練、基本的姿勢訓練など。 ※対象は機能訓練の利用者のみ
OT(作業療法)	日常生活動作能力、認知能力の向上をはかる。 巧緻性動作訓練、関節可動域訓練、筋力増強訓練、日常生活動作訓練、認知訓練など。
ST(言語療法)	失語症・高次脳機能障がいの利用者を対象に、コミュニケーション能力の向上をはかる。 失語症・高次脳機能障がいの評価・訓練、その他のコミュニケーション手段の検討など。
歩行・車いす走行	歩行能力・車いす駆動能力・基礎体力の向上をはかる。活動性の向上をはかる。
グループトレーニング	ストレッチ・筋トレなど、基本動作の向上のための基礎訓練。グループにより、更衣等日常生活動作の基礎的動作、外出、コミュニケーション等を行う。
入浴	日常生活動作の向上をはかる。 利用者個々の介助方法の評価など。
スポーツ	スポーツを通して、心身の健康の維持・向上をはかる。 ボッチャ、グランドゴルフ、ボウリングなど。
グループワーク	小人数のグループにて、高次脳機能障がいの理解・受容の促進や地域生活にむけた課題の整理をはかる。自分の心身の変化に気づき、ストレスへの対処法を身につける。
パソコン	基本技能の習得と向上。認知機能の改善をはかる。 タイピングや文章作成など。
脳リハ	認知機能の維持、改善をはかる。注意、集中力の向上をはかる。 文章文字消し、漢字や計算のドリル、書写、脳トレーニングなど。
認知訓練	聞き取り・書き写し・発表などの課題を通して、集中力・記憶力やコミュニケーションの向上をはかる。
体操・脳トレ	運動(移動)を伴う認知訓練。
メモリーノート	予定管理能力の向上、記憶障がいや遂行機能障がいの代償手段の獲得をはかる。
注意力と運動	記憶障がい、注意障がいや半側空間無視の症状に気づき、周囲に注意を向けながら、安全に行動や移動ができるようになることを目指す。
言葉・交流	言葉以外の手段も利用して、生活上の簡単なコミュニケーション能力の向上をはかる。失語症の利用者同士の交流をはかる。コミュニケーションを楽しむ。
Sトレ	共同作業を通して他者との交流を楽しみながら、活動性の向上や作業能力の向上をめざす。
Jトレ	模擬的な事務作業を行い、作業能力の向上をめざす。

趣味活動	余暇活動の充実や書字能力・集中力の向上をはかる。利用者同士の交流をはかる。 書道・筆ペン習字・写経・絵画・絵手紙・塗り絵など。
陶芸	余暇活動の充実をはかるとともに、手指を使う機会とする。
カラオケ	余暇活動の充実をはかる。(コロナウイルス感染症対策により自粛中)
PT/OT 外出	外出時に介助や見守りが必要な利用者に対し、理学療法士や作業療法士が車いす操作訓練や近辺外出訓練を行い、単独外出範囲拡大をはかる。
交通外出	公共交通機関(電車・バス)を利用した単独外出の練習と評価。 ※単独での外出を想定し、障がい者手帳の提示や駅員への介助依頼も利用者が行う
生活実習	キッチンや浴室のある個室にて、単身やグループホームでの生活を想定した生活(買い物・調理・清掃・入浴等)とその評価を行う。
調理評価	調理動作の練習・評価を作業療法士が行う。
職能評価	軽作業と事務作業を通し、就労をめざすための基本的な能力の確認を行う。
作業体験実習	厨房業者の協力を得て、食堂にて配膳・後片付けの実習と評価を行う。(コロナウイルス感染症対策により自粛中)
講座	健康管理や社会資源の利用など地域生活で必要となる内容について、啓発や情報提供を行う。
朝の会	見当識や連絡事項の確認や記録、スケジュール管理の習慣化をはかる。体操やストレッチによる身体機能の維持、向上をはかる。
自己学習・ 自主トレーニング	自由時間に各自で設定した課題(計算ドリル、パソコン等)に取り組む。 PT/OT/ST から自由時間に行う自主トレーニングを提案。※取り組む内容や量については、必要に応じて職員が支援

※ プログラムの名称や内容は令和 8 年 2 月時点のものです。